昭和39年6月1日発行

中央大学　理工学部

電気工学科同窓会々誌 第5号

発行所 東京都文京区小石川2-1　中央大学理工学部電気工学科同窓会（Tel 813-4171 内線245~6）

巻頭言

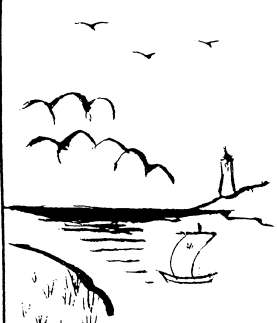
理工学部長
廣瀬敬一

電気工学科同窓会が一年ぶりで開催されることになっている。卒業生諸君も既に実社会において大きな活躍をされている様子を聞いて御同慶に耐えない次第である。今回新たに卒業されて同窓会に入会される諸君も先輩に負けないでやってもらいたいものと期待している。

昨年の春は新校舎の落成を慶んだが、実はその時はわが電気工学科としては、特記する程の新設備は何もなかったわけである。しかしその後の一年の間に高圧実験室、無響室、電波暗室の三つが完成して、その偉力を発揮する段階になった。高圧実験室には一五〇万ボルトの衝撃電圧発生装置、四〇万ボルトの試験用変圧器および二〇万ボルトの直流高圧発生装置がその後徐々に御回復の御様子である設置された。これらはいづれも他の大学には皆無かあるいは非常に稀らしいものであって、これからのわが電気工学科の高圧関係の研究が飛躍するであろう、また無響室、電波暗室も他の大学には殆んどないような設備であって、これもまたその活躍が期待される。

つぎの朗報は久しく待望の大学院博士課程がわが電気工学専攻にも認められたことである。永い間建物や図書の不備のために不本意ながらも設置が延期されていたのが、今年ようやく認可になり、しかも修士課程にも博士課程にも学生が入学したということである。

これでようやく電気工学科も名実ともに最高学府となったことで慶びに耐えない。しかしながら今春はじめて停年制が実施されて永らくお世話になった上田、東條の両先生がその始めての適用者となられたことは、まことに残念なことである。東條先生は非常勤講師としてしばらくは非常勤講師としてしばらく止まられるが、上田先生は非常に御高齢なため引退されることになったのであるが、両先生の今後の御健康とお祈りして止まない。また各先生も



原田先生外遊

本会々長電気工学科主任教授の原田保之助先生は去る五月八日(金)土時ルフトハンザ航空のジェット機で世界一周の海外視察旅行に旅立たれた。先生の旅程は香港を振り出しに欧州、英国を経てアメリカ各地を廻り最後にハワイから空路帰国の予定である。出発に際しては我々同窓生として出来るだけ盛大にお見送りをと念じて、たが、あまり時間的餘裕もなく同窓の諸兄に連絡出来なかったのは、まことに遺憾の至りである。そこで先生の御帰国の折りは、御都合のつく同窓の諸兄の盛んな御出迎えを今からお願いをしておく次第である。

先生の御帰国予定日は本年九月八日(火)(日本航空)であるが到着時刻が未だ確認されていないので後日学校の方にでも問合せて戴きたい。

終りに同窓の諸兄と共に先生の旅行の恙無きを祈る次第である。

（幹事）

定年退職に当って

上田大助

中央大学で、定年制が実施されたので、私もこの三月で退職しました。不敏でありながら、長年の間、同窓の皆さんと共に学事に励むことが出来ましたのは、一重に諸先生と卒業生諸君の御厚情の賜物と深く感謝しております。

十二年間の過去を顧みて、何のなすこともなく、甚だ忸怩たるものがありますが、自分として有意義な期間を持つに事を喜んでおります。学校は去りましたが、今後とも皆さんと諸に学問の事に励みたいと願います。相変らずご厚誼を願い上げます。

退職に当って、諸先生及び卒業生諸君から多額の記念品代を頂き、厚くお礼申し上げます。

東條喜一

中央大学で、定年制が実施されたので、私も今年の三月限りで退職致しました。私のような者が大過なく（これは退職に当っての常用語でありますが）定年を迎えることが出来ましたのも、全く諸先生及び卒業生諸君のご厚情のおかげであると深く感謝しております。

「笛ふかず太鼓たたかず獅子舞のあと足になる心安さよ」という道歌がありますが、私は中央大学在職の十二年間を全く獅子舞のあと足で過して参った次第であります。

なお退職に当り、諸先生お

よび卒業生有志諸君から多額の記念品代を、いただき、まことにありがたく、厚くお礼を申し上げます。

私は幸に健康に恵まれておりますので、今後は弁理士として発明界に微力をつくす考えであります。また諸先生のご厚意により、兼任講師として、講義に参っております。

第十二期生入会

本会も昭和二十八年に第一期生をもって出発してから十年目となり、今回第十二期生を迎えて会員数は一三〇〇名を超えたわけであるが、本学の発展と共に同窓の諸兄の大いなる御活躍ぶりはまことに御同慶の至りである。

なお第十二期生の中で畫同部卒業の諸兄より電気工学科に対し卒業記念として立派な食器戸棚とトレイワゴンを贈られたので電気工学科在職の諸先生に代って御礼申上げる次第である。また右の贈物に関しては卒業間際のこともあり各人に報告出来なかったので同期の諸兄には本文により報告に代えたい旨、篠田、鶴岡両君より伝言のあったことをつけ加えておく。

（才二期　小林　健一）

COMFORTABLE

吉久信幸

世界各国のテレビ受像機の台数調査で米国に続いて日本が第二位になったと新聞に報道されてましたが、工業の発展を荷なう者は誰れかと考えるとそれは技術者、卒業者の一人の努力の結晶です。

先日従業員四百名のある会社の社長さんが御来校になり、お話の中で「この頃は技術的なことより、人の問題でどうしたら社員が気持よく働けるか、ということを心配してます。」という言葉に感じました。

戦後日本の多くの工場はマスプロで所懸命でcomfortableな職場は少ないようです。しかしながら急速な進歩の時代です。マスプロに続いてcomfortable environmentな時代がやって来ると確信してます。諸君が課長になり部長になった時代には、現在の体験を活かして、是非comfortableな職場を作って頂きたい。

健康に気をつけて大いに頑張ってください。

けんこう

ひとロにけんこうと、えば「健康」かと思う。その「健康」にも肉体的なそれと精神面のそれがあり、その疲労の質と回復の程度もまったく違う。最近S社のK君が体の悪いことを知り、自分も若干同じ病気になったことを思い出した。

同じけんこうでも、オリンピックにアセリながら昼夜けんこう（兼行）で働く機械のようになれないものか。

（友）

会からのお願い

毎年総会の前に幹事会を開催し、総会日時、場所等を決定したり、今後の問題を検討しておりますが、同窓会をより充実発展させて行く為には各会員の近況連絡が必要であり、そして入会して金六百円づつを御渡致しました。

の活発なる御意見を基にした会の運営が望まれるわけであります。その為には名簿の整備、会誌の発行等、もっと充実しなければなりません。それ故各会員の移動、近況等必ず連絡して戴きたくお願い申上げると共に会誌（も奮って御投稿下さい。

会員数も千数百名になり、同窓会事務も拡充すべく各幹事共努力しておりますが、やはり会員各位のバックアップが必要であります。

毎回書くのは恐縮ですが、終身会費未納者は必ず御協力御願いします。

会務報告

工田　東條　西先生定年事業会

先年末御通知申上げ、同窓の有志諸兄より多大の御協力を戴いた当事業会は左記の明細のように寄附金額より西先生に記念品代として金六百円づつを御渡致しました。

本来ならば当事業会より御協力戴いた諸兄に対し別便にて御報告しなければならないところですが、諸事情を考えて恐縮ですがここに御報告させて戴いた次第でございます。

中央大学電気工学科としては歴史はまだまだ浅く、このような意味で今回の金額は西先生に御渡しするのに我々幹事としてまことに心細い限りでありましたが、西先生には大変御喜び戴いて同窓の諸兄にくれぐれもよろしく伝えて欲しいとのことでございました。

なおまた西先生は御協力戴いた方々に直接御礼状でもと云われたのですが、本会誌を借りて発表させて戴くということで、その点は御辞退申上げました。これで本事業会は無事に初期の目的を達したわけで、本日をもって解散することになりました。同窓諸兄の御協力を感謝致します。尚本事業会に御協力戴いた有志諸兄の一覧表を挙げておきました。

収入……寄附合計三三名分　一三九、〇〇〇円
支出……通信費等諸雑費　九、〇〇〇円
西先生にお渡しした分　一二〇、〇〇〇円
計　一二九、〇〇〇円

上田東條西先生定年記念事業寄附者一覧（敬称略）　順不同

【教員】広瀬敬一・原田保之助・谷忠篤・梅原忠利・大類浩・福沢寛・吉久信幸・山下美雄・猪狩武尚・大塚健之助・安藤敏雄・有馬純照・鈴木昭八郎・山口高文・深井昌・饗庭秀雄・青柳直・小林信樹・下鳥寿夫・鈴木克郎・中内康雄・橋本良治

【第一期】村田孟夫・森英次郎・若林駿介・密山順・望月政尚・森本康一・柳沢利文・与前田・和藤島美彦・藤本兼久・舟橋恒徳・高崎富治・藤田一・町田定之・矢吉宇長栄・山本憲・李林水・伊藤瑛二・大沢清・島崎富治・藤田一・町田定之・矢吉宇長栄・山本憲・

【第二期】五十嵐富男・大塚章・小林健一・平岡浩司・柳沢利文・与前田・和・李林水・伊藤瑛二・大沢清・島崎富治・藤田一・町田定之・矢吉宇長栄・山本憲・

【第三期】市川修二・大越功・行方二郎・吉谷野次郎・斉藤浩三郎・上野勝敏・生沼清吉・服部修一・

【第四期】木田春雄・矢野新治・我妻昌男・遠藤忠雄・堀内武和・河原忠雄・宮沢久夫・永松清興・重藤将美・鈴木均・山口岩男・山崎信生・堀直治・

【第五期】田中武・青木義雄・柳原弘一・増永啓至・吉沢嘉人・江口良助・反町輝夫・伊藤隆・小野忠・後藤春雄・宮島良夫・青木国吉・石田金蔵・松本清二・

【第六期】稲葉繁・鈴木耀太郎・今沢茂夫・市川反之・滝山秀義・向佐雅英・斉藤純男・横川博・永井甫・佐藤清高・会田精一・飯高武彦・小林邦男・相初則平・飯田達彦・山村和昭・伊藤恒雄・木内保夫・丁武明・猪腰忠之・名取忠博・

【第七期】鶴嶺和四郎・山部誠・池上弘之助・大野昭次・畑中忠男・熊野忠治・吉富健一郎・大塚慎郎・寺西孝・内山雅人・山崎智博・後藤国足・増子忠一・坂巻忠巳・大熊久雄・渡辺一雄・竹内茂・野口方喜雄・小谷清・末建郎・

【第八期】秋山弘・小泉直平・福田繁夫・福島勲・千葉修・為本嘉男・富岡秀夫・須田忠方・斉藤春郎・林知則・岩淵信・中島繁・平田猛・鷲尾幸司・重政弘康・小野雅司・甲田精宏・米田芳之・橋村武司・脇田孝・斉藤登・小川宏・半田英二・渋沢寿久・橋口博・村井康男・加藤武雄・狩野徳明・中島徳夫・佐々木宗之・

【第九期】斉藤嘉範・田辺幸治・藤野茂雄・矢口猛・恩田純明・鈴木孝寿・中村良一・小村宏一・吉田進彦・植松英男・大野英雄・

【第十期】田村明也・中川浩一・米倉孝栄・長谷金也・大竹紘八郎・柳川芳彦・森竹宏安・岡村好文・高橋昌也・和泉良彦・藤本守彦・猛内弘・大野逝・笠井秀昭・新井欽司・伊藤恒三・谷内忠弘・成田拡夫・丹羽一夫・平島道男・福田昌彦・山本昌弘・

【第十一期】塚本幹八・長野忠紘・見津祐一・小竹啓三・辺田昌樹・佐藤君後・根岸邦光・飯田建男・小島豊・川西敏之・前田邦隆・小野口昇一・中村昭英・柳沢安信・島津誠・松本史・福田恒雄・山口博之・内藤茂・戸田紀良・渡辺清・森山祐好・古村紘・谷津八郎・住吉多喜男・伊藤満・上妻誠・平岡竟瑛・浜岡英雄・佐藤洋・板生公彦・高橋信隆・鈴木武雄・五味西昭・武井忠・

【大学院】李瀛富

昭和三十九年五月一日　定年記念事業会実行幹事

編集後記

毎回のこと乍ら会誌発行の直前になって原稿を依頼したり、又原稿不足のため、内容的にも満足すべきものが出来ないのはまことに遺憾である。今后は会員諸兄の寄稿を大に採用したいと思う。終りに本会誌の発行にあたって並々ならぬ御協力を頂いた本学内の各幹事に深く感謝する次第である。

編集幹事　吉江・小林

電気科　教員移動

昇格

助教授　遠藤正雄先生　昭39.4

実験講師

有馬純照先生　昭39.4

深井昌先生　昭39.4

結婚

遠藤正雄先生　昭38.1.30